

# 「九州地域情報化研究会 in 九重」

～いなかにならぬ情報通信利活用術～

大分合同新聞社

木本 行罔

[kimoto@oita-press.co.jp](mailto:kimoto@oita-press.co.jp)

2010年1月21日

# 内容

- はじめに
- 関連サイト紹介
- 道具としてのインターネットとCATV
- “いなかにも似合う、って？”
- 何のために、誰のために
- 提案
- まとめ(今後の課題)

# はじめに

- 別府に住んでいます
- パソコンはどちらかというと苦手です
- インターネットも好きなほうではありません
- 便利なものは好きです
- 道具(ツール)は好きです
- 新しいもの、便利なものは大好きです
- 楽しいことはもっと好きです
- 新聞社で働いています

# 関連サイト紹介①

## ■ 大分合同新聞グループサイト

- [oita-press](http://oita-press.com) (大分合同新聞社の公式HP。月間300万pv)
- [oitatv.com](http://oitatv.com) (大分合同新聞の動画サイト)
- [大分の音楽ポータルサイト「Dive!」](http://dive!oita.com) (音楽ポータルサイト)
- [アイぶんぶんひろば](http://aibunbunhiroba.com) (九州ウェブサイト大賞2006で優秀賞を受賞)
- [kakula.jp](http://kakula.jp)-[カクラ] (県内のクリエイターが一堂に集結したブログサイト)
- [ほめられサロン](http://homerare.com) (全国的に話題になった噂のサイト)

# 関連サイト紹介②

- めじろん放送局 (<http://www.mejiron.tv/>)
  - 2008年大分国体開催時に大分県が開設
  - 国体用は閉鎖されたが、2009年9月1日に再度開局
  - ビデオボランティアが255名登録(社会人30名・学生225名)
  - アクセスは月平均約11,500(2009年9月～12月)
  - 課題はボランティアの活性化
  - 今後は更にコンテンツを増やし、アクセス増を目指す

ちなみにツイッターのめじろんページです。

<http://twitter.com/mejiron>



# 道具としてのインターネットとCATV

- “使われる”より、“使おう”
- インターネットにもローカルがある
- プッシュとプルの違い
- インターネットとCATVの使い分け
- 3758世帯がつながった
- 何が変わるのか？
- ではどうするか？

# “いなかに似合う、って？”

- イナカニニアウ・・・必要ないと思いますが・・・
- 欲しいもの、困っていることを出し合う
- 先行事例を見てみよう！
  - 徳島県名西郡神山町
  - 福岡県朝倉郡東峰村
- “いなか”しかできない事

# 何のために、誰のために

- 主役は皆さん、だけど時間がない・・・
- コミュニティーはリアルが一番
- 内向き？外向き？
- 地産地活がまず大事
- 外へのPRは外の方(仕組み)を使う
- 内向きコンテンツは外向きに
- 発信は自ら



# 提案①

## ■ まずは“地産地活”（内向き）

- ① ライブカメラの設置
- ② トレイサビリティ
- ③ 議会中継
- ④ 番組制作を授業に取り入れる
- ⑤ 視聴者（町民）参加型番組制作
- ⑥ パソコン教室（子供がお年寄りに教える番組）
- ⑦ 緊急通報システム

# 提案②

## ■ 外向き

- ① 九重町が取りまとめて通販
- ② 動画を使っでの観光PR
- ③ 消費者への情報発信
- ④ イベント情報
- ⑤ 九重町出身者への情報発信
- ⑥ ファンクラブ創設(プレゼント会員など)
- ⑦ 町内(人) ⇔ 町外(人) を繋ぐシステム

# ネット(CATV)の活用

## 情報発信



### 内向き

- ・ライブカメラの設置
- ・トレイサビリティー
- ・議会中継
- ・番組制作を授業に取り入れる
- ・視聴者(町民)参加型番組制作
- ・パソコン教室  
(子供がお年寄りに教える番組)
- ・緊急通報システム

### 外向き

- 九重町が取りまとめて通販
- 動画を使つての観光PR
- 消費者への情報発信
- イベント情報
- 九重町出身者への情報発信
- ファンクラブ創設(プレゼント会員など)
- 町内(人) ⇔ 町外(人) を繋ぐシステム

**コンテンツ(番組)の2次利用が可能!**

## まとめ（今後の課題）

目的をハッキリさせる

優先順位を決める

リーダーを決める

まずはモノマネから

仲間を増やす

コンテンツを効率よく利活用

今日の日を十分活用する

終わり